

「健在なり芦高」創立六十周年を祝う

第15代学校長 八木 勇蔵

芦高創立60周年を心からお祝い申し上げます。

2000年のお正月、1月4日に懐かしい芦高を久しぶりで訪問できた。創立50周年の年を含む2年間、芦高の名声の回復に微力を尽した日々を思い出しながら体育館・同窓会館・本館や、震災後明るい色調で再建された中・南館を歩いた。冬期練習中の各部活動の生徒諸君の姿を見て「芦高健在なり」と意を強くした。

平成2年2月29日、本校体育館に於て「創立50周年記念式典」を同窓会長和田一成氏、PTA会長山口良之助氏、西村太一氏らの深いご理解と、職員・生徒の協力を得て、見事に成功させた。県教育委員会代表をはじめ、参会者の皆さんから「芦高はこんなにすばらしい式典ができるのか」と驚きと賞讃の言葉をいただき、それまでにあった芦高に対する誤解を払拭することができた。

また「国際的にも開かれた学校」にするために、国際交流の第一歩をふみ出した。①西豪州の4人の高校長の受け入れ、②その校長の所属校ジェラルトン高校とカラマンガ高校とのホームステイによる生徒の相互訪問、③タイ国高校生のホームステイ受け入れ、④豪州の原住民・アボリジニーの公演を全校で鑑賞、⑤初めての常勤外国人講師リチャード・ケリー（現神戸大学教授）の配属を受け、公開授業による研究会を開催したこと、などが思い出される。

懸案の同窓会館も幾多の難問を解決して、同窓生の浄財により完成した。本当に嬉しかった。

私が芦高に在任した2年間は、本当に充実した日々であったと喜んでいる。ご協力をいただいた関係者の皆様に改めて感謝の意を表わして、慶祝の言葉とする。